

コロナ支援・春の大運動で659名加入

目標の会員
2,000名達成!

組織拡大に奮闘された会員より

郡山地方農民連 宗像 孝さん

郡山地方農民連は持続化給付金の申請を呼びかけ、会員を2.8倍化し、大きな成果を上げることができました。「これで申請していいのだろうか」と最初はちゅう躇もありましたが、新聞「農民」による江藤農水大臣(当時)の国会答弁「ほぼほぼ全ての農家が対象です」、「稲作農家も売り上げのない月と比較してもかまわない」等の繰り返しの報道に励まされて次々と申請に踏み出しました。受給された方が知り合いを誘ったり、地域でまとまって申請したり、60人以上の会員を拡大する会員も現れました。持続化給付金の申請によって、農村では農民連の知名度は上がり、信頼が高まり、これからの運動にとって貴重な礎を築くことができました。郡山市は大規模水田農家が非常に多い地域です。昨年のような暴落がおければ一気に離農がすすむことになります。大きな組織になった今、この力を活かして昨年以上の運動を広げていきたいと思っています。

安達地方農民連 Aさん

昨年12月20日頃に農民連会員の友人を暮れの挨拶で訪問した際に、持続化給付金を紹介されたのがきっかけでした。それから農民連のホームページを見てどんな組織で、何に取り組んでいるかを勉強しました。全国組織で、しっかりしている。農業委員の仲間の農民連会員の姿も見えていました。農協も役場もこの制度を教えてくれなかったが、農民連の支援で給付を受けた農家はみんな大変喜んでいました。農民連は税金もしっかり勉強できるので、引き続き税金勉強会も勧めています。

目標としてきた
会員数2000人達成
紹介の連鎖で飛躍的拡大

福島県農民連は、新型コロナウイルスの影響を受けた農家に持続化給付金制度を知らせ、多くの会員が申請しました。この取り組みのなかで、全県で650人を超える新会員を迎え、会員数で2000人を超える史上最高現勢を達成しました。

特徴的なのは、専従や一部の力持ちの会員が仲間増やしに奔走するのではなく、給付を受けた会員

何でも相談できる組織へ

県連役員が幹事会で、「新しい会員には新しい要求もあると思う。それも一緒に考えて要求を実現していこう」と発言されました。農家戸数が大きく減少する中

持続化給付金が始まった当初は、県連幹事会でも「農家が本当に申請していいのか」など慎重な意見が多く、広がりませんでした。しかし、コロナ禍による米価暴落の実態や、農水大臣の「ほぼほぼ全ての農業者が対象」との国会答弁、「『農閑期の申請は不正』との報道記事は誤り」と明言した中小企業庁と農民連との交渉内容などが新聞「農民」で伝えられると、農家も申請できることが確信となり、広がっていきました。一部の申請には不備修正で戻されることもありましたが、管轄する中小企業庁との交渉で問題も突破してきました。

受給した多くの農家が「米代が下がってがっかりしていたが、これで来年も米作りができる」と喜び、営農への意欲を取り戻しています。

福島県農民連会員数

	県北	安達	郡山	須賀川	県南	会津	南会津	浜通り	南相馬	合計
販売農家数	8,160	4,312	8,150	6,616	6,401	9,614	1,844	7,164	1,641	53,902
会員現勢	336	593	390	281	84	80	16	196	27	2,003
比率	4.1%	13.8%	4.8%	4.2%	1.3%	0.8%	0.9%	2.7%	1.6%	3.7%

販売農家戸数は平成27年時点

が「こんないい制度はみんなに知らせなければ」と地域の農家に広げたことです。新たに農民連に加入された方がさらに広げたり、これまでは周りに声掛けしたことがない会員も積極的に声掛けしました。こうした会員一人ひとりの声掛け、紹介が連鎖し、これまでにない規模で拡大が進んでいます。

で、個人では解決の難しい問題も今後増えてくるでしょう。そんな時何でも相談できる仲間と農民連組織は必ず力になります。

新会員の入会時には、農民連の他の要求活動にも参加してもらえよう、「農民連のしおり」を渡しています。持続化給付金申請時には税金の申告書や収支内訳書を見せていただく機会もあり、経費の漏れがあることなども伝え、「税金記帳、申告も農民連と一緒にやりましょう」と呼び掛け、さらなる飛躍にむけ各地で奮闘が続いています。

税金記帳の様子



農民連フラッシュ flash

農民連第24回定期大会が開催

2021年1月20日、農民連第24回定期大会が開催されました。新型コロナウイルスの感染が拡大している情勢の中、初のオンラインでの開催となりました。通信を繋ぎ、各都道府県組織からの発言も滞りなく行われました。福島からは、安達地方農民連事務局長・本多芳司さん、福島県北農民連事務局長・服部崇さんの2名が発言しました。



籾殻堆肥づくり

籾殻と米ぬか、そして畑の土が材料。手で握って崩れない程度の水分が決め手。この堆肥で「アグロエコロジー」に挑戦です。



太陽光発電用地をお貸しいただける方を募集しています。

- ① 約1,000~3,000㎡の遊休地(県北地域)
- ② 日当たりがよい
- ③ 宅地、雑種地、林地、原野、農地などの地目
- ④ 賃貸条件:1.5万円/10a(年)、20年間借用になります。

ご連絡いただければ、現地を確認させていただきます。

【連絡先】福島県民連産直農業協同組合 担当:佐々木健洋
Tel 024-546-7229 fax 024-546-8804
メールアドレス:stake@vmail.plala.or.jp

